

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハートの家伍番館 1	評価実施年月日	平成20年10月15日
評価実施構成員氏名	伊藤 美深、牧野 恵子、関塚 摩州、本間 麗子、新山 秀子、稗田 麻希子		
記録者氏名	国柄 幸恵	記録年月日	平成20年10月23日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>本年度法人内で地域密着型サービス提供のための理念を作成した。</p>		<p>法人内での新理念作成については、法人内の事業所管理者が互いに意見交換を行い話し合い作成した。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念はまる覚えするだけではなく、日常生活の中で実践し、見やすい場所に掲示してある。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議において紹介を行いました、当日参加できなかったご家族にも郵送で紹介している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の商店、美容室を利用したり夏祭りの案内をしている。今年の夏祭りは近所の子どもたちが多数参加してくれたり、近隣の人の参加があったり、夏祭りに参加できない人からも家庭菜園でできた野菜の提供があった。また家庭で不要となった未使用のタオルや紙おむつ、衣料、手芸用品の提供して下さるようになった。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の活動は少ないが、町内会の総会に出席させていただき、ホーム紹介の時間を設けていただけたら、ホームから離れている商店街では昨年に引き続きよさこいソーラン見物をさせて頂き、その際にホーム入居者様の手作りのお菓子などお礼の品として受け取っていただいている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の人から伺った認知症家族の介護経験を参考に2ヶ月に1度発行している地域向けホーム便りに認知症についてのコラムを設け地域の皆様に介護保険のことや、認知症という病気への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。また電話での匿名での相談も行っている。</p>		<p>入居希望の問い合わせの電話で満室状態でご希望に添えない場面でも何か困っている事や介護保険での解らないことの有無の伺い、必要に応じて地域包括支援センターなど関連機関のご紹介をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	<p>現在法人内での管理者会議でも成年後見人制度や地域権利擁護事業については学習を行っており制度利用を必要に応じて推進しているが、今後法人内での研修会で取り上げ法人内の全職員への学びの場の提供を検討中</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	<p>高齢者虐待防止関連法について勉強会等学ぶ機会を設けること検討中</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	認知症という事で利用者本人が意見・不満・苦情を伝え難い状況であり、日々の生活の中で職員側から表情・活気・ソワソワ感などから原因を探り引き出す様に取り組んでいる。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りは今年度より、ホームの様子その他各に入居者様の個別のお便りを付けるようにし、日常生活の細かな様子をお伝えしている。また定期受診時、医師よりの説明など変化のあった場合や、病状の急変などの場合はご家族へ連絡を行っている。		今年度より、ホームの日常生活とは別に個別のお便りを発行する事で、ご家族様にここの生活の様子をお伝えしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情相談の公的窓口やホーム内の苦情受付など説明し、またポスターなどの掲示を行っている。苦情ボックスも設置している		ご家族訪問時の言動の中に不満等が無いかに常に留意し取り組んでいる。またご希望としてお話をくださった内容についても、苦情としての要因はないかに常に検討しご家族の希望に添えるよう取り組んでいる。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの提案や意見については、申し出があった場合は管理者は職員と話し合い取り組んでいるが、改めて職員よりの聴集を広く聞く場は設けていない。		日常業務の改善などの意見や提案が職員から出された場合はユニット管理者やリーダー・サブリーダーと検討行ったり、毎月の会議で話し合わせ業務改善を行っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯は早番・日勤・遅番と入居者の方の生活帯に合わせており、通院日などは、日勤の人数を増やし対応行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在の職員は平成19年9月より異動・退職などなく固定しており管理者は平成18年1月の開設以来管理者の交代は無いため職員と利用者の方々とのなじみの関係は保たれている。		今後、ユニット間での人事異動など踏まえ日々の生活の場面でユニット交流を行い他ユニットの職員と入居者の方々の馴染みの関係を構築できるよう取り組んでいる。また離職したスタッフが訪問してくれる事を楽しみにされており、離職したスタッフが気軽に訪問しやすい環境作りを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員の経験や力量に合わせ研修受講の体制をとっている。</p>		法人内の研修、外部研修も全職員が受講できるよう取り組んでいる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>外部研修などで同業者との交流する機会はあるが、相互を訪問等の活動は無い</p>	○	管理者間では交流の話しを行うが、実現には至っていない。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人内の忘年会や年1回程度の歓送迎会などで飲みニケーションを行う程度である。管理者は職員のストレスの把握には努めているが、ストレスを全て取り除けているとは思えない。</p>	○	職員個人個人のストレス源を把握し具体的にストレス管理を行う必要があるが、職員個々の性格やスキルなども深く結び付いている為今後職員一人ひとりを理解していく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員が努力したことについては、認め評価を行っている。</p>	○	職員一人ひとりに合わせた課題を計画的に設定し職員の目標を具体的に提示できるように取り組みたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居希望の相談があった場合は必ず御本人に来訪していただき、ホーム職員とコミュニケーションを取っていただき、困っている事などをお聞きしている。また入居された後の初期ケアの多くの時間を本人との会話やスキンシップに費やし意見や不安な事を引き出すよう取り組んでいる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居希望の相談時点ではまず初めて認知症の家族をもった事での戸惑いや不安を受け止め、今まで家族が行ってきた介護を労う事を必ず行い、自分達が親をみれない、ホームに入所させるという負い目をなくすことで、ホームへの希望などを聞くように心がけている。(負い目の気持ちが大いとなかなかホームへの希望が家族様は伝え切れない)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望があり入居へ向けて調整中にご家族がまだ一緒に暮らしたいとの気持ちをもたれている事がわかった時点で小規模多機能型のサービスを進めたり、いったん入居後にご家族の主訴変更があった場合に居宅支援事業所の介護支援員と連携し新たな生活をスタートしていただいたり、常にご本人とご家族の希望に添えるよう支援している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族より生活歴や留意すべき点等の情報を頂き職員とは勿論のこと他の入居者様とのコミュニケーション作りにも介入し会話や表情から不安や困っている事を探り徐々に馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者様に対し常に敬意を払い学ばせていただいている姿勢でより良い関係を築くよう努力している		入居者の方々の得意な事を通し指導してもらい場面を支えあう関係を構築している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	些細なことでも常に相談し協力を得ながら信頼関係を深め一緒にご本人を支えているという実感をご家族も持てるよう努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の面会は勿論ご本人が望まれた時は電話を掛けていただいたり、家族と御本人のより良い関係作りを支援している。またホームに入居した事で逆に家族との関係が思わしくなくなった場合も在宅時の担当介護支援専門員や担当医と連携しながらより関係の修復についての検討を行っている。		遠方のご家族については御本人から家族の記念日に手紙を出す支援を行っただけ。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族はもとより、会いたいと願っている方との交流も行えるように取り組んでいる。		自宅で過ごされていた時に利用していたり床屋や美容室の利用なども行って店主の方々の懐かしい時間を過ごしていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の入居者同士の人間関係から「困っている人」や「病気の重たい人」など自分より「弱い人」への気遣いが見られたときに「何時もお世話してくれて助かりますありがとうございます」と感謝の気持ちをお伝えする事で入居者の方々の「優しさ」を引出し入居者の方々相互の「お互い様」の共有の支援を行っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居されたご家族とも必要に応じ連絡を取り合っている。又なくなられたご家族から年金などの制度の相談も受け付け支援行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買物など行きたい場所への希望があった場合実現できるように調整を行っている。また一人ひとりの思いを聴き言葉に出せない方は表情や行動に留意し悩み事がないかの確認も行いこちらから悩み事の引き出しを行っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式で生活歴や生活習慣を知りまた入居者の方から直接伺ったことから把握に努めた職員間でも情報の共有を図っている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の様子を知り心身状態はもとより「出来る事」「出来ない事」「出来るのにしない事」過去の生活歴から潜在的に持っているとおもわれる「能力」などを探り職員間での情報の共有を行って現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回介護計画書の検討会議を行い必要時随時サービスの見直しを行っている。ご家族にも介護計画書を説明しご家族の希望や意見を伺って承諾を得てサービス提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院や介護度の変更時、ニーズの変化時には随時見直しをおこない新しい介護計画を作成している。介護計画の作成については本人・ご家族・担当医の意見を取り入れている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に詳細を記入し、情報の共有を行った上でケアの実践や介護計画の見直しに生かしている		今年度7月1日より、個別記録の改正を行いより詳細に記入できるようになった。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	少人数での生活の場としてのフットワークの良さを活かしホーム内での閉じこもりにならない様に個別ケアやユニット単位での外出行事を入居者の方の希望に応じ行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣にある病院や美容室商店の利用や行事の際学生ボランティアの受け入れを行っている又近隣の派出所や消防出張所へ地域版のホーム便りを届けホームへの理解をして頂き、単独外出の事故防止や救急搬送時の留意事項の指導を頂いたり、所轄の消防署では避難訓練時の搬送研修を個別で行っていただいたり、避難訓練では出向いていただき適切な指導を受けている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近隣の訪問看護ステーションのケアマネージャーや通院先の医療ソーシャルと連携を行う事で本人の意向に沿ったケアを行えるよう取り組んでいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1度の地域運営推進会議に参加してもらっている他、匿名で受けた介護相談の中で緊急に対応しなければならない相談内容には相談者へ地域包括支援センターを紹介している。尚ホームとしての権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントについての協働は現在その必要性が無い為行っていない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院はあるが、入居時にご家族やご本人の意向を確認し希望に沿っている。		全入居者にはそれぞれ担当医がおり、病状変化があったときは夜間でも連携行っていたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症への理解ということではなく、ホームに入居されている個々の方の理解をしていただけるよう日常生活を含め受診時に報告を行い支援している。周辺症状が強い方については、随時精神科医との連携を行い特に認知症専門医という事では無いが症状の改善が見られ、ホームのケアに理解があり協力的である。		定期受診や入院などの連携の中でグループホームという生活の場への理解を医師だけではなく、連携先の医療スタッフがそのかわりの中で、深めていただけるようになった。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在、看護職の配置はないが、連携先の往診看護師との合同での学習会など行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の方が入院した場合は可能な限り早期の退院に向け御本人やご家族の意向を汲みながら連携を行っている。		御本人・御家族が早期の退院やターミナル期をホームでの生活を望まれた場合でも、その病状や御本人自身が耐え難い苦痛が予想される場合は、御家族と共に担当医からの病状説明を受け御本人自身が安楽に生活できるよう取り組んでいる。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	病状により必要に応じ御家族への意向確認を行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の考え方に付いては医療サービス、介護サービスの提供側と受けて側である御本人・御家族では温度差がある場合も多い為、ホームでの生活を送る中で、病状などに合わせ自然な形でお話を伺っている。現在1名の入居者様については、連携先の医療ソーシャルや担当医御家族と終末期に向けての準備段階にある。	○	法人としての「重度化・看取りケア」についての指針は整備されているが、職員への教育は行っていない。今後計画的に学習会を行えるよう取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅で使われていたなじみの家具などを居室に置いていただき住み替えのダメージを最小限にできるよう支援している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>尊敬の意を持って声がけを行い、記録なども専用の書庫にしまい個人情報の漏えいに留意している。</p>		<p>同じ地域からの入居者の方同士の場合に時としてデリケートな事が話題になる状況もあり、職員は必要に応じて介入を行っている。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言動・表情や動作から「して欲しい事」などを把握しご本人の希望に沿いながら出来る限り実現できるように努めている。また自己決定についても御本人に不利益が生じない場合は実現に向け支援している。</p>		<p>御本人が自己決定されたことでご本人にとって不利益が生じることが予想される場合は、御家族と話し合いまた必要時は担当医を交え、ご本人・御家族と一緒に話し合いの場を設けている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>外出、買物など希望があれば意向にそって取り組んでいる。</p>		<p>急遽の希望には実現が困難な場合もありその様な場合は、御本人と話し合い日程を決め実現できるように取り組んでいる。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自ら整容が出来る方はして頂き、できない方に付いては職員と一緒にいる。理容・美容は訪問のサービスを利用されている方も多いが、御本人の申し出により自宅付近の床屋・美容室を利用されている方もいる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食べやすい形態の工夫や入居者の方個々の食べ方に配慮し、食事作りから後片付けまでを入居者の方の状態に合わせて一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は御本人の好きな物を用意されており、ホーム提供のおやつなども入居者の皆様の希望を聞き提供している。献立は基本的に決まってはいるが、会話の中で食べたいものがあつた場合は入れ替え柔軟に対応している。現在タバコを吸われている方はいないが場所の用意はある。飲酒についても御家族・医師と相談し可能であれば飲んでいただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツで入居されて来た方でも外すよう支援し御本人が行きたい時に何時でもいけるようにしている。居室内でポータブルトイレを使用している方もフロアのトイレを使う機会を増やしている。また尿意の訴えの無い方については、排泄リズムをつかみトイレ誘導を適時行いリハビリパンツ・パットの使用を軽減できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は午前と午後に分かれているが、御本人の体調や希望に沿って行っている。	○	夜間入浴は現在希望されている入居者様は無いが、今後希望があつた場合やは取り組んで行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の方の体力・認知度の状況に合わせて休息をしていただく。夜間安眠できるよう日中の活動を支援し、また心配事があつて眠れない場合は不安を取り除き安眠できる環境作りを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理・食器拭き・洗濯・掃除など職員と一緒に行動することで人の役にたっている喜びを感じて頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方は御家族の了解のもとで自己管理されている。管理できない方は買物の時に職員が介助しながらレジで支払をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	御家族様との外出には制限がなく、また希望時の買物や近くの公園への散歩など日常的に行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に一回は全員で外出している。季節を感じて頂けるよう花見や、よさこいソーラン祭りの見物は法人内のホームの夏祭り参加を行っている。年1回御家族様もお誘いして1泊の温泉旅行も行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人の希望された時は何時でも電話を掛けられるように支援しており、手紙なども代筆支援行っている。		遠方に住まわれている御家族さまへ大切な家族の記念日にメッセージカードを贈る支援もしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族様などの訪問は何時でもできます。旅行・敬老会・クリスマス会等の案内など差し上げ交流の場を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。また職員は言動にも留意している。車椅子抑制ベルト、ミトン、抑制服・ベットの柵など禁止の対象なども運営者はもとより職員は理解している。		随時、身体拘束等の研修に職員は参加している。また身体拘束については今後も行わない方針であるが、マニュアルの整備を行うため準備中である。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は全員居室・玄関共に鍵は掛けておらず夜間就寝時にご自分で施錠される方も居られるがご本人了解の下巡回時や必要時には御本人の了解をえて鍵をあけ安否の確認を行っている。夜間は防犯の為玄関は施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングにて共有の時間を過ごしてもらい活動支援を行っているが自室で過ごされている方についてはお茶にお誘いしたり職員が訪室し自室での様子の確認をさせていただいている。		一人ひとりの所在を常に把握する事を怠らないよう取組んでいる。自室に居る方についても時折訪室し所在や安否の確認を行っている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様一人ひとりの能力に合わせ危険を判断し職員預かりや御家族に持ち帰っていただいたりしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険のある方は動作時の始まりから終わりまでを間近で見守りを行う、服薬に対しては服薬時、日付・朝・昼・夕・氏名を声に出し確認を行っている。行方不明については、日頃より地域の皆様と交流をしまし間近の派出所へもホームの地域版広報誌を届けながらグループホームの理解を深めていただき行方不明者を出さないよう取り組んでいる。火災については防火管理者を中心に取り組んでいる。	○	・転倒～動作時は常に見守りを行い歩行の安定を確認する。 ・誤薬～常に個々の薬の状況のチェックを怠らない ・誤嚥～正しい食事姿勢のため椅子の座り方、詰め込み過ぎなどに留意する ・行方不明～入居者の方一人ひとりの所在の確認 ・火災～防火訓練とタバコの火等の確認夜間防火扉の締め切りなど現在行っている事を確実に継続していきたい
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	法人内での大研修において医療・消防の協力得て「緊急時対応」の研修を行った。	○	今年度予定していた救急法の講習の未講習者全員受講が出来ていないため順次受講していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練の開催。 地域運営推進会議～地域の方・医療関係者を交えホームを理解していただき協力が得られるように会議が定例化されている。		第5回地域運営推進会議は搬送訓練を中心に公開で避難訓練を行い地域住民や御家族の参加を頂きグループホームの火災についての取り組みを知っていただいた。 今後も地域運営推進会議開催と参加の呼びかけを継続していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	来訪時に折にふれ近況の報告を行いリスクについてもお話し、特変事などはその都度報告し予想されるリスクについて説明している。	○	家族様との連携を密にし気軽に何でも話し合える関係をより深めていく
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化に気づいた際必ず他の職員へ報告し体調の見極めを行い管理者や必要時勤務外の職員にも状況報告を行い送りノートに記入し情報の共有を図る。緊急性の高い場合は急変時マニュアルに沿って緊急受診・救急車要請を行う。		間近の消防署の出張所より、救急隊が欲しい情報を記入した救急搬送時台帳の作成を勧められ、入居者の方一人ひとりの病歴や今までの受診先病院リストを作成し救急隊の確認も行っていただき整備した。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診ファイルを作成しここ薬事情報を常に最新のものを一緒にファイルし随時変更された服薬内容を把握出来るようにしてあり、服薬変更時は体調の確認を行い変化時は速やかに担当医へ報告し指示を頂いている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分多目にとって頂き、歩行の機会を増やし便意が起こりやすいように取り組んでいる。献立にも繊維質の多い食品を取り入れている。		心疾患や腎機能低下など水分の制限・運動制限がある場合は、担当医と連携し取り組んでいる。精神的な変化にも留意し排便困難が原因となっていないかを探り薬だけに頼らず、水分の工夫や運動、は便反射のある時のトイレ誘導を行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自分で行える人は声がけも守りにて行っていただく、義歯の方は必ず外してもらい見守り必要時お手伝いをさせていただきます。		毎食後の口腔ケアは今後も継続し行い口腔内雑菌や食べかすによる誤嚥性肺炎の予防に努める。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の病気や既往歴を理解し担当医師に一日の水分量の確認を行い支援しているまた検査結果に合わせ食事内容の見直しや食事制限についても医師指示下のもと支援している。		毎食の食事摂取量を個別記録に記録し栄養のバランスなども留意して支援を行っている。また食事摂取量の少ない方には補食などを行い支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の大研修は年1回必ず感染をテーマにしたものを行っている。研修で学んだ消毒キットは整備されている。感染マニュアルも整備されているが、疥癬・肝炎・MRSAについては感染者は現在いないが、今後感染者が出た場合は担当医の指示の下病状や保菌状態に合わせ対応していく、過度の感染防止対応と対象者の尊厳にはくれぐれも留意する。排泄介助や血液・吐物処理については感染源とみなし必ず手袋にて処理を行っている。		日頃からの清潔保持や消毒などに努め緊急時速やかに対応できるように継続的に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・台所～調理用具の消毒を毎日行っている ・冷蔵庫～常に衛生を心掛け掃除を行い長期の食品保存は行わない、冷蔵庫内の温度は一定に保たれるように温かいものは荒熱を取り保存している ・鮮度の良いものを食して頂くために長期の買い溜めをしていない。		食事を残された方については、御本人の了承を得て破棄している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りにはプランター・ベンチを置き日光浴など入居者の方はくつろがれて入るが、近所の方が気軽に立ち寄る事は無い。	○	気軽に立ち寄れるように工夫をして行く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の共有空間に季節ごとの装飾を入居者の方と職員の共同作業で行い季節を感じて頂けるように支援している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファや好みの椅子を点在させる事により一人で安らげたり、気の合うもの同士が談笑されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に御本人御家族と相談をし馴染んだ家具や肌に合った寝具類を持ってきていたり、愛着のある物品も可能な限り持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・温湿度計を設置し温度調整を行っている ・調理、清掃時は換気を行い気になる匂いや埃が残らないように配慮している。 ・自室に洗濯物を干されている際は湿度が上がりに過ぎないように居室の状態も確認を行い随時換気や温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下、浴室、トイレには手摺を設置している。	○	居室入り口にスロープが設けられており、撤去困難な為見守りを行い転倒防止に努める。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る事、出来ない事、昔は出来ていて、今はしていない事など見極めスタッフが統一ケアを行えるように心掛けている動作の躓きが多くなってきた場合は職員がさり気なく動作を示すことや御本人の理解しやすい言葉かけを行い動作の切欠作りを行い支援している		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターで花を育て水遣りなどの世話を一緒に行い花の成長を楽しんでいただいている。玄関脇のベンチでは天気の良い日は花を見ながら日光浴を行ったり時にはお茶など飲みながら過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者の方の意志を尊重し又御家族より今までの生活情報を頂きその人らしい生活をしていただけるように努力している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>入居者の方と一緒に体操や歌を歌ったり食事作りの野菜の切り方や味付けなどのアドバイスや知恵を頂ながら一緒に行っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>好きなときに好きな事が行えるように時間に拘らず御本人のペースに合わせた暮らしを支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方から感謝の言葉を頂いたり笑顔が見られる。又以前は消極的だった人が体操や月に2度の社交ダンス日に職員と一緒にダンスをされたりホームの家事をお手伝いをして下さる姿が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>近隣のスーパーや公園散歩へ出掛けたりして楽しんでいる。また受診時通院の為戸外へ出かけることでそれまで外出を拒まれていた方が職員と一緒に食事作りの買物までいけるようになった事は大きな成果である。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方の日常生活で「いつもと違う」変化を見逃さず病気の早期発見が出来担当医と連携し治療が行われ重篤にならずに済んだことでホームでの安心できる暮らしを支援できている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員間で話し合いを行ったり、御本人とのコミュニケーションで不満や要望を引き出し解決を行う事で安心できる生活の支援をしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>御家族が来訪された時は近況の報告を行い不安な事や希望を伺い信頼関係を築いている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>月に2回ボランティアの方によるダンス教室や行事にはハーモニカを疲労して下さる地域の方がおり、入居者の方の楽しみになって居る。御家族は最低でも月一回は訪問されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>二ヶ月に一度の地域運営推進会議を行う事で地域の方と直接お話しする機会が増え関係が出来つつある。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員同士困っている事など話し合い助け合っことで意欲を持って働く事が出来ている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方より感謝や労いの言葉を頂き外出先から戻られたときの「ホッと」した表情などホームでの生活にはある程度の満足はいただいていると思う。また不満も直接職員に話していただけており早い段階で一緒に考え解決できている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>御家族来訪時には日々の生活の様子などお話し笑顔で帰られている。今まで出来なかったことを職員と一緒に言う事で出来るようになった喜びを御家族と共に分かち合っている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 認知症を特別な事として捉えるのではなく、「〇〇さんだから」という視点に立ち個性を大切にハートの家伍番館で一緒に生活を楽しめるように支援させていただいている。